

## 令和4年度第1回小鹿野町総合教育会議会議録

開催日時 令和4年7月25日(月) 午前10時30分  
開催場所 両神ふるさと総合会館 研修室A  
開会時刻 午前10時30分  
閉会時刻 午前11時49分

### 出欠席状況

町長	森 真太郎	出席
教育長	武藤 彰 男	出席
教育委員	宮原 正 博	出席
	中山 忍	出席
	近藤 正	出席
	石田 加津美	出席

### その他会議に出席した者

社会教育課長	高 橋 豊
学校教育課長	南 徳 秀
学校教育課主任	岩 本 直 樹
総務課長	新 井 昇
総務課副主幹	上 井 一 人

傍聴者 なし

会議録署名 武藤 彰 男

### 日程

- 日程第1 会議録署名委員の指名  
日程第2 議 事  
(1) 小学校再編整備(統合)について  
(2) その他

### 会議の進行状況及び顛末

開会 午前10時30分

町長 あいさつ後、令和4年度第1回小鹿野町総合教育会議の開会を宣言する。

以下、日程に従い議事を進めてまいりたいと思います。  
よろしく願い申し上げます。

町 長

まず、日程第1、会議録署名委員の指名を行います。

会議録署名委員の指名については、武藤教育長を指名いたします。よろしくお願いいたします。

「はいの声あり」

町 長

次に日程第2、議事に入ります。

(1) 小学校再編整備（統合）についてを議題といたします。  
学校教育課長より説明をお願いいたします。

学校教育課長

それでは(1)小学校再編整備統合について申し上げます。今回、小鹿野町教育審議会からの答申を尊重いたしまして、施策を進める教育委員会の決定に基づきまして、4小学校区で5日間の地域説明会を実施し、皆様からご意見、ご希望を聴取させていただきました。まず結果から申し上げます。参加状況ですけれども、今回4地区、5回に分けたわけですが、まず小鹿野地区の下小鹿野から春日町そして倉尾地区を対象に6月13日に行った説明会に参加した方は15名でございました。続きまして、長若小学校区は6月15日に行い38名の参加。三田川小学校区は6月21日に行い、26名の参加。両神小学校区は6月24日に行い34名の参加。そして、小鹿野小学校区は2回に分けたわけですが、上町から伊豆沢地区までを対象に行った説明会には16人の参加ということでございました。全体で129人の参加でございました。

それでは続きまして、説明会時に参加者から調査させていただいたアンケートの集計結果です。アンケートは全部で124枚配布し、114枚の回答でございました。それでは内訳を説明いたします。4校を一斉に令和7年度に統合した方が良いと回答した方です。一番多い66名の回答でした。次に4校を一斉に令和6年度に統合が10名。続いて、4校を一斉に令和8年度に統合が3名でした。3校を1校ずつ段階的に令和6年度から令和8年度に統合するが19名。3校を1校ずつ段階的に令和7年度から9年度で統合するが2名でした。次に、1校を先に令和6年度に統合して、その後に2校同時にするパターンがゼロ。先に2校を統合し、次に1校を統合するパターンが3名でした。そして、その他です。子供の意見を聞いて、段階的に7から9年度でやった方がいいが1名。3校、長若小、三田川小、両神小を1校に先にして、そこを統合した方がよいが2名。学年内等で統合を実験的に繰り返しが1名。それから、統合しないが1名。最後に無回答6名です。このような結果になりました。

続いて、アンケートに記入いただいた多かった意見をいくつかだけ、紹介をさせていただきたいと思います。段階統合よりも一斉統合を推奨する意見が一番多い意見でした。それから、子供たちの学習環境を考えると統合した方が良い。しかし、各学校で行っていた良い学習とか行事などは残していった方が良いというご意見です。次に、学童に対する意見です。両神学童は是非残してほしい。人数が多くなって目が行き届かないのでは困ります。小鹿野小学校の学童を活用することなども検討してほしい。月契約の学童があっても良いと思う。子供が夏休みだから仕事を休むというのは、会社には通用しないので、仕事を変えなければならないか悩んでいる。このような意見がございました。現在、学童を利用している児童は160名います。統合した場合には、小鹿野小学校の近くの学童に通っていただくこととなります。これから先に学童160名が増えるということはないと思われますけれども、現在でも小鹿野小学校の近くにある学童クラブでは、これだけの人数を受け入れるキャパはあるということがございます。また、夏休みにかけての受け入れ等も今後は検討していただけるということです。それから、現在、夏休みだけ利用しているという方は両神学童で1名です。これが学童の状況です。次に、統合すると低学年の1クラスの人数が多くなるので、配慮してほしいという要望です。これについては現在の複式学級でやっているような形態をとりまして、合同で行った方が良い体育とか音楽とか、そういったものを合同でやって、その他の授業においては、クラスを分けて行う、そういう風な対応をとっていきたいと考えております。次に、吸収合併ではなくて、保護者や地域一緒になって、皆さんから愛される愛着のある学校を創りたいという意見です。これは、今まさに取り組みがスタートした町全体中学校区で行うコミュニティスクールを充実させていきたいという風に考えています。そして次が、統合前に実のある交流事業を行って、不安なく統合できるようにしてほしいという意見です。これは、説明会での質疑応答でもたくさん出ました。次が、ランドセルや体操着、保護者や児童に関わるものは早く決めて、早く知らせてほしいという要望も多く寄せられています。

続いて、小学校の再編整備方針および実施計画でございます。こちらにつきましては、アンケート結果に基づきまして事務局案として、令和7年度、4校一斉の統合とする案に差し替えました。今回の総合教育会議におきましては、町長と教育委員の皆さんで、意見交換をしていただきまして、ある程度の方向性を見い出していただきまして、今後、統合計画の成案を作成し、

最終的な決定を8月の教育委員会の定例会でしていただく予定でございます。その後、12月の議会定例会におきまして、学校設置条例の改正案を上程させていただき予定でございます。8月の教育委員会で統合計画を決定したことを9月の議会全員協議会で報告をさせていただきます、条例の改正と並行して統合準備委員会を立ち上げまして、その後の詳細な話し合いに入っていきたいという風に考えております。以上で説明とさせていただきます。

町 長           ご苦労さまでした。ただいま学校教育課長から、小学校の再編整備統合についての説明がございました。これから協議に入りたいと思います。各委員さんからご質問ご意見等ございましたら、忌憚なくご発言いただければと思いますので、よろしくお願い致します。

町 長           今回、高校の再編整備が県の教育委員会の方から発表されたんですけども、秩父管内では、秩父高校と皆野高校が統合して、新校として秩父高校の場所につくるという表記がありました。この場合の書き方を見ると、小鹿野小学校に統合ってなるんですけども、4つの小学校が統合して新しい小学校が小鹿野小学校の所にできるんだってという表記の方がいいのかなと、県の教育委員会の発表を見て思ったんです。対等統合っていうか、吸収じゃないのだから、そっちの方がいいのかなと思いました。

学校教育課長   様々な事項につきましては基本的には小鹿野小学校のものを母体として、それに統合する小学校の要素を加えて、新しく創って行くという考え方で調整して行くんですけども、結論的には、新しい学校という風なイメージをしています。

教育長           何も無いところ、ゼロから新小学校となると何も無いので、すごくそういうイメージがあるんですよ。小鹿野小学校を母体として、例えば三田川小学校でやってるものを取り上げていく。両神小学校、長若小学校とやっていきたい。そうすると新しい学校ができると考える。極端な言い方で「対等です、対等です。」と言って摩擦が起きてしまうのは困る。

町 長           いかがですか、ご意見いただきたい。

宮原委員       各地区での意見を読んでもそういうことがすごく出ているんですよね。なので、世論作りっていうか、町民の皆さんの世論っていうか認識に働きかける言葉や、配布物の中にそうい

ったものがイメージできることが非常に大事なかなと思います。そのためには、準備委員会立ち上げのとき、最初のときにそういったことを「新しい学校になるんですよ、皆さんお願いします。」こういうスタートを切ると後々に良いかなと、言葉の力を大事にすることが必要かと思いました。

町 長                    はい、ありがとうございます。

近藤委員                「様々な事項については、基本的には小鹿野小学校のものを母体として」という記述があるので、その辺でちょっとその母体ってという言葉が、新たに作るのに母体があるということが逆に宮原委員さんのおっしゃったことを考えると少し言葉を変えた方がいいのかなという気が、ちょっとしてきました。「令和4年度中に全体的な調整、協議を一度に行い」とありますが、もう4年度に全てを協議をするってということなのですか。

学校教育課長          早めに決めて、ジャージとかカバンとかそういうのは、まだ統合しないにしても早めにおきたいという風な要望がいっぱいありますので、それに対しての早めにいろんなことを決めておきたい。

近藤委員                これは、準備委員会で決めるってことでいいんですか。

学校教育課長          そうですね、準備委員会を立ち上げてです。

町 長                    準備委員会を立ち上げてから、議会の議決前にやりたいってことですよね。

学校教育課長          12月の議会定例会に条例改正を提案し、そこで決定する前に、その統合の準備委員会でいろんなことを話し合っていくのですが、あらかじめ了解してほしいということを9月の全員協議会で議会の方に話しをしたい。

教育長                    統合校、小鹿野小学校の将来像ですが、多様性と調和っていうことで、多様性を今求められている。社会の中でも学校にも多様性が求められていて、その中で調和を持つ。今、少人数指導ってやっておりますが、そうせざるを得ない状況なんですけど、新しく皆で40人になり、その中で、少人数でもいろんな少人数が選択できるんです。グループ学習についても非常に多様なグループ学習ができる。それから教科担任制、これは、今はちょっと無理なんです。職員数が少ないですから。小

鹿野小学校くらいになると可能になり、導入していきたい。ICTは、個人で友だちの意見を聞きながら選べること。こういう小学校をつくっていくことによって、活発に児童それぞれ自分の考えを発表する、決断する。それを支える学校運営協議会を立ち上げましたので、今までと違って、三田川地区、長若地区、両神地区からも委員さんが出ておりますので、小学校こうにやった方が良くないかなど声を出していただきたい。こういうのを小学校教育に取り入れたらどうだと。そういうのを積み上げられる組織ができていますので、そうすることによって充実していく。一番端的に言うと、こういう学校ができるんだ。創るんだと理解いただきたい。

町 長

小規模校だとなかなかそうしたいと思ってもできない。制限がある。ある程度規模がないと。

宮原委員

今、教育長が話された、人数が今後多くなるから、こういう学校を創りたい、まさにその通り。そうすると大事になってくるのは、そういうことをするために人材の確保が必要となる。3回の人事の中で、こちら側として満足のいくのができればいいなということが大前提です。当然、中でやりたいことは最大限やるんですけど、なにせ学校に来るのは人ですから、教員ですから。今度4つの小学校が1つになったときの人数に匹敵する学校は、近隣の市にはあるわけで、その規模の小学校は、そこにはやっぱり負けないと。うちは1町1校の小学校なのだから。そのためにやっぱり知恵を出していく。それが先ほどのお話のような言葉の啓発をしていくっていうことと、準備の段階で保護者の気持ちに寄り添った先ほどのジャージやカバン、それももちろんものすごく大事なことですけど、それと合わせてもう1点は、本当に人をつくるために1校になるわけですけど、本当に町がさらに発展するために、人づくりに力を入れていくってこの事業です。変換点でのこの事業は、点でなくて、面で他にもいろいろ影響しますし、他のものから影響をもらいながら統合問題を解決すると思っています。

中山委員

やはり保護者は、学童なんですけれど、学校教育と課が違って住民生活課になると思うんですけど、課が違うとか関係なくて、今まで各地区にあったものが、結局、安全面を考えて近くの学童に行くということで書いてありますが、それは決定で変わることはないんですよ。下校は皆スクールバスで帰りますから、各地区のスクールバスで下校することによって、学童にスクールバスで送っていただいて、そこに下校すれば安全面は

問題ないかなと思ったものですから、何で無くなってしまおうのだろうと。保護者の方の考えとしましては、各地区で学童があって、そこに仕事帰りに迎えに行く、小鹿野小学校の近くとなりますと、近い方はいいですが、そこまで迎えに行くということが出てくるという意見をよく聞きます。

学校教育課長 説明会での質疑応答の中でこのようなものがありました。娘が小学校4年生にいます。小学校のことと別かもしれませんが、統合後の学童保育について、町の方でどのように考えていくか教えてください。以前は三田川からワゴン車で小鹿野の学童を利用していた。その後、また三田川小学校の校舎に移ったことで、行ったり来たりしたことがあったということです。小学校統合するので、もう1ヶ所にしてほしいという風な保護者の意見で、やはり行ったり来たりするんじゃなくて、安全面もあるので、近くの所という意向もありました。やはりいろんな考え方があると思います。基本的には統合準備委員会の方でも検討していくことになるかとは思いますが、基本は小学校の近くの学童に通っていただくことで、町としては調整を進めていきたいと思っています。

中山委員 学童に行かない児童もスクールバスで帰してもらっているので、その時に途中下車も児童には安全ではないか。

近藤委員 学童の話が出たので、さいたま市の知り合いの話を聞いたんですけど、小学校っていうのはある意味、コロナ禍で休みになってしまうと給食も出なくなっちゃうので、学校っていうのが子供を見てもらう福祉の場となっている。それと付随して学童というのが非常に重要で、近くにおじいさんおばあさんがいても見てもらわないで学童に入れるっていう人が多いらしくて、学童がなければ子供を作らないという話も聞きました。この少子化の時代にやっぱり学童というのはちょっと重要な設備なのだなど。学童もちょっと町的には一緒に小学校の問題と考えていただければ。それから、アンケートで子供の数が増加するよう方策を考えて努力してほしい。それから、給食費や学用品などへの補助が非常に充実しているとは思ってます。それは他の秩父郡市と比べても満足だ。充実してるっていう、そういうありがたい意見も出てるんです。その辺もこれから活用していただきたい。

町長 家庭の代わりになるんですよね、ある面では。学童を充実させるのも大事。それに町が支援してやるとか。子ども何人に対

して指導者が何人という基準なんかあるのか。

学校教育課長     そこはちょっと今確認できてないです。

町 長             学童保育料は民間も町営も合わせてあるのか。

学校教育課長     学童保育料につきましては合わせてます。民間も町でやっている学童も一緒です。金額は、小学校の3年生で区切られてまして、1年から3年生が、保育料が6,000円でおやつ代がプラス2,000円それで12ヶ月ってことで年間9万6,000円。4年生から6年生が保育料5,000円でおやつ代が2,000円の7,000円掛ける12ヶ月ってことで8万4,000円ですね、年間です。両神学童については、その他に保険料を徴収してますので、プラス150円ずつになってきますので、両神学童につきましては、1800円分がプラスされている。

町 長             学童は町から補助が出てるのか。

学校教育課長     町から補助金が出ます。住民生活課から。

町 長             その辺は、今度できる準備委員会で学童の関係を協議するのが良いか。

学校教育課長     そうですね、はい。

石田委員         説明会の人数にびっくりしました。もうちょっと大勢の方が集るんじゃないかと思ってたんですけど。合計で129人。どうしてなんだろうと思ったけど、皆様ご理解した上、関係する方々にお任せしてという思いで、参加者が少ないという風に感じました。その少ない人数の中でアンケートを取った結果が、この案として出ている。全体の人数が少ないのに結論に至ったということは、関心のある方でこういう結果になったと捉えていただく。そんなような思いをちょっとしてるところです。それから私が経験上、幼稚園3園の統合に関わらせていただいたとき、感じたことは、吸収統合ではないということを小鹿野小学校以外の方々は、すごく強い思いがある。地域にある幼稚園が無くなるというのは地域の方には大変なこと。そして、その中でそれぞれの地域の特色をできるだけ活かして新しい小鹿野小学校を創ってほしい。そういう思いは皆一緒。だからこそ、吸収じゃないよ、皆同じ立場の中で、それぞれの学校の良さ、



地域の良さを活かして学校ができていく。それを基本にして話し合いをしていかないと他の方から吸収じゃないかと声上がるんじゃないかと思う。

これから保護者の方を中心とした準備委員会が発足されますけど、保護者の方には、制服やジャージとか身近なことがまず大事、学童もそうなんですけど。それぞれの保護者が、全部に納得いくことはないですけど、共通理解し合って意見を言う、そんな準備委員会であってほしい。私も以前そういった準備委員会をやったときに、まだ統合したくないという思いがワッとあるんですよ。どうしようと思ったんですよ。会議を重ねるごとに皆さん共通理解をしてきて、あるとき小鹿野の保護者の方が三田川や両神の幼稚園の保護者の方々に「一緒にやってみましょう」という言葉をかけたんです。こんな風に小鹿野小学校の保護者の方に思ってもらえると統合もうまくいくのかなとそういう風に思った、そんな記憶があるので、皆で1つの新しい学校を創っていくんだという意見が統合準備委員会と言えるような、そんな準備委員会にしていざいただいたら、ありがたい。

それから、もう1つなんですけど、先ほど教育長から小学校のあり方ということでお話しをしていただきました。保護者の方も私もそうなんですけど、これから統合したときにどんな学校になっていくのか。やはり子ども達が楽しく通えて、素晴らしい、新しい小鹿野小学校ができることを望んでいるので、それに向けて先生方であったり、保護者であったり、努力されて良い学校を創っていただきたいなと思います。それで、中学校統合のときの話を聞くと、不登校であったり、いじめであったりといった問題がゼロではなかった。40人統合して不安定になる子がいた。それを極力少なく皆が通える学校づくりを皆で努力をされて、良い学校づくりに向けて邁進していただければありがたいと思いました。

町 長

このアンケート集計結果の前に、先ほど話しがあった審議会があったわけですよ。審議会の中でも、かなり意見聴取、各PTAの代表者がいらっしゃって。各PTAそれぞれ独自に何かアンケートを取ったっていう話を聞いてるんです。その辺はいかがか。

学校教育課長

はい。まず審議会のときにアンケートでございませうけれども、審議会委員さんには各PTAの会長さんがおまして、審議会に統合計画の案を諮問しているときに、自分1人では聞けない答えられないということで各PTAの会長が中心になって、各

学校に全員の保護者にアンケートを取ってもらったりとか、そういったことはやっておりました。審議会の委員としての意見として言うために、各会長は取ったということです。ですので、こういう風になるんだっていうのがPTAの方には浸透していったのかなと思います。

町 長            そういうのが参加者にも表れているっていう気がする。まるっきりいきなり変わるのじゃなくって、ステップ踏んでるから、あれで承知していいんじゃないかと。特に小鹿野小学校の方は少ないですね。

学校教育課長    そのアンケートが少ないということでございますけど、やはり先ほどの審議会の答申にもありましたように、しっかり説明を聞いていただいて、質疑を受けて、そして、理解した上での一斉なのか段階なのかを決めてほしいっていう風なことになる。その説明会に事務局としても、大勢の方に参加していただきたいという風な気持ちがありましたので、各小学校のPTAの保護者には全員に通知いたしました。また、こども園の保護者にも全員に通知しました。また保育所のひまわりの方につきましても同じです。それでも、漏れがあっては困るということで、広報にも載せてございます。また回覧もですね。それを行った上で、この人数ということでございますので、参加しなかった方っていうのは、理解をしていただいているものだと、こちらでは承知しています。ですので、興味関心のある方が会場に来ていただき、質問していただき、その中でいただいた回答だというふうに思っておりますので、アンケートの回答は、すごく意義あるものだという風に思っております。

町 長            関心を持っておられる方が来られたと。他の方は承知している。

学校教育課長    おまかせっていう形。

町 長            やっぱり長若の方の人口比率は高いですね。石田委員さんがおっしゃった新しい小学校を創っていくんだっていう、それに向けて皆さん対等協議をしてもらっていく姿勢が大事になって気がします。

                  他はいかがでしょうか。

石田委員        先ほどのアンケート。今、課長がおっしゃったように、その前段があるんですね。これがいくらか説明の中に、こうです

よとわかるといいのかなと。

町 長           もし議員さんに説明するときは、プロセスを簡単に、少なかつたけど、こういう理由があるんじゃないかと。解説してあげるとね。確かにパッと見ると少ないですよ。他はいかがでしょうか。

近藤委員       先ほどのアンケート結果なんですけど、少数意見ですがいろんな要望が出ている。例えば「統合に向けてどのような活動や動きをしているのか、リアルタイムで情報収集できるシステムを作ってほしい」というのは、ホームページとかで順次状況報告して、誰でもアクセスできるように作ってもらえたら。それから、「下校時のバスの行き先が子供の放課後の過ごし方を決めてしまいます。曜日によって、選択できるよう習い事や祖父母宅、学童などと連携願います。GPS防犯ブザーの配布」などいろいろあるんですけど、できるかどうかを検討していただいて、だんだん心配を無くしていくような努力もしていただければと。少数意見ですけど、意見が出たんで、なるべく検討していただきたいと思います。

町 長           準備委員会の話を聞きたい。どうに進めていくのか。

学校教育課長   まだ準備委員会を立ち上げるにあたっては、その設置要綱とかをつくっていきなさいいけないので、その辺のところはまだ出来てないですけども。中学校のときには、かなり細かく項目があったのですけれども、そういった事を参考にさせていただき、先ほど石田委員さんも言ってましたけど幼稚園の統合もありました。そういったところも参考にさせていただきながら、やはり決めなさいいけないことを先に優先順位を付けながら取り組んでいきたいと思います。統合準備委員会で決めることというのは、すごくいっぱいあるのかなと思っています。

町 長           保護者の方は、身近なことを気にされる方が多い。確かにリアルタイムで情報提供できればいい。

学校教育課長   このアンケートの結果なんかもホームページで出したりとか広報に掲載させていただいたり、そういったところは進めていきたいです。

宮原委員       質疑応答の中に、「まず申し上げたいのは、教育審議会が非公開で非常に残念でした」というのがありました。いろんな意

見がある。そのときの会場にいらした皆さんがどう受け止めたかということなんですけど。要するに1個人の意見として、いろんなことを言っているわけですから、それはそれでいいと思うんですが、そういう風な考えの方がもっといたかも知れないと、もし、お感じになったとしたら、今の話とリンクするんですけど、この後のメンバーのことだとかを考えると、考慮していかないといけないし、公開日その会議には、議会と一緒に、チャックですけどチャックしながら傍聴するのはオッケーですよっていうのか、できるかどうかわかりませんよ、必要かどうかっていうのは別ですけど、そんなことも含めて、やるのが先ほど僕が言ってるように見える化していくっていうことに繋がるし、啓発っていうことにも繋がっていくんじゃないかなと思ったんで、ちょっとそれらを含めて、どういう風にしていくかお考えいただきたい。

学校教育課長      はい、公開、非公開とありますけれども、できれば公開でやっていきたいと思っております。

町 長              これ人選が難しいよね。

宮原委員           今、手順を踏んでいい感じに積み上がってきているんですから、理論的、論理的に配慮しながら、最終的には多数によって決まって、ものを成していくわけですから。今までの基準は決して間違っていない、非常にいい感じ。さらに、皆さんの理解を深めたいっていうことで、そういった準備委員会を開くわけですから。やっぱり最終的には、決断していかなくちゃなんですけど。

学校教育課長      教育審議会についても、当初は事務局としては公開を考えていたわけですけども、条例の中の一文に運営については委員に諮って決めるっていう風にありますので、そこで公開しますか、非公開にしますかという風なことを諮ったときに、委員の中から非公開でやってくれという話が出まして、それに基づいて皆さんで決を採ってもらって、非公開になったわけです。傍聴に来た人も1名いたわけですけども、ご理解をいただいたと。

近藤委員           私はどっちかというと別に公開にするかしないかよりも内容の濃い議論ができるかの方を重視してもらいたいのので、もし頼まれた委員の方が、公開ではちょっと遠慮しちゃって、思ったことが言えないっていうような場合が一番まずいことだと

思いますので、やはり選ばれた人の希望を聞いて公開か非公開かを決めるというのが。中身の良い審議をしてもらうのが目的なんで。私は、そっちをとった方が良いと思います。

町 長

普通、一般的には諮るよね、審議会は。その都度諮っているケースが多いんじゃないか。審議会は、その都度諮ってもらう。それを踏まえて議論してもらえれば。

以上で総合教育会議を終了

閉会 午前11時49分

上記会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

令和4年8月18日

教育長 氏 藤 彰 男

---